

2026年6月15日

最近の長野県経済の動向 (月例調査)

概要

全国景気※	緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある
長野県内景気	生産面を中心に底入れの兆しがみられる
3月の生産動向	生産は底入れの兆しがみられる
4月の個人消費	乗用車新車販売台数は2カ月連続で前年を上回る
4月の公共投資	公共工事保証請負額は3カ月ぶりに前年を下回る
4月の住宅投資	新設住宅着工戸数は5カ月ぶりに前年を上回る
4月の雇用情勢	有効求人倍率は2カ月連続で前月を上回る
今後は、中東情勢の悪化に伴う資源価格上昇や供給面への影響について注視する必要がある	

※内閣府「月例経済報告(2026年5月)」より

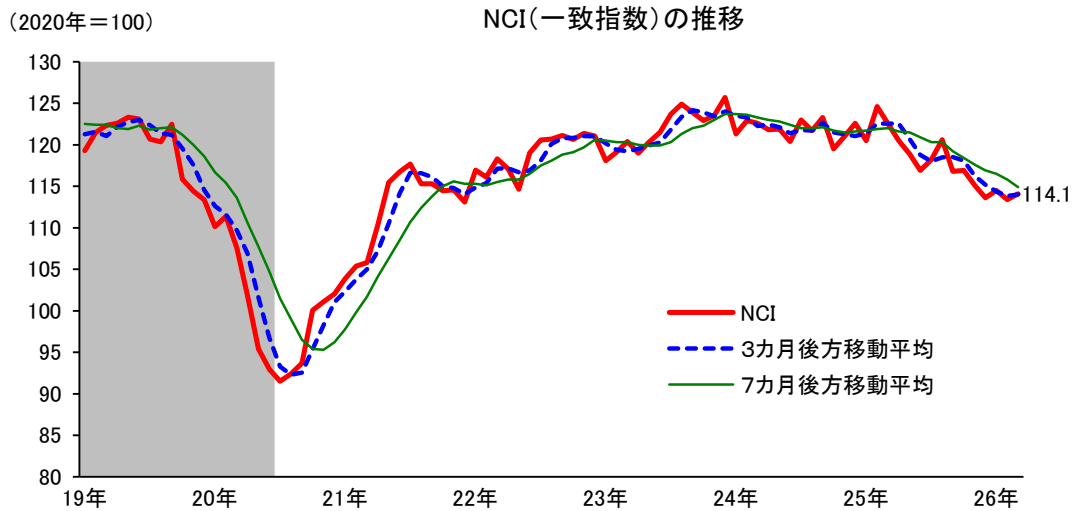
照会先

一般財団法人 長野経済研究所 調査部
担当 桑井、須田
電話 026-224-0501

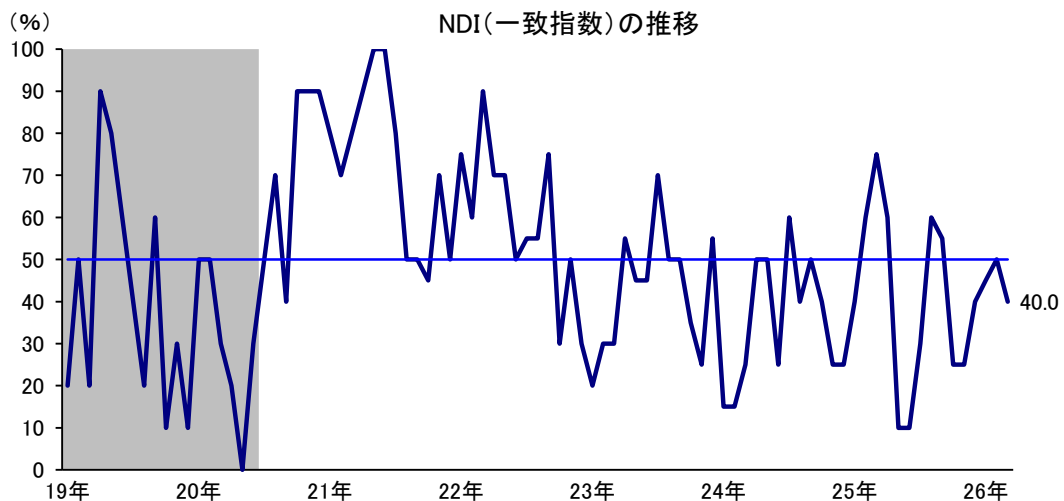


景気動向指数

- 3月のNCI(一致指数)は、114.1と前月と比較し+0.7ポイントとなった。3カ月後方移動平均は、同+0.2ポイントと7カ月ぶりに上昇した。7カ月後方移動平均は、同△0.9ポイントと7カ月連続で低下した。NCI(一致指数)は、悪化を示している。
- NDI(一致指数)は、40.0%となり、景気判断の分かれ目である50%を2カ月ぶりに下回った。



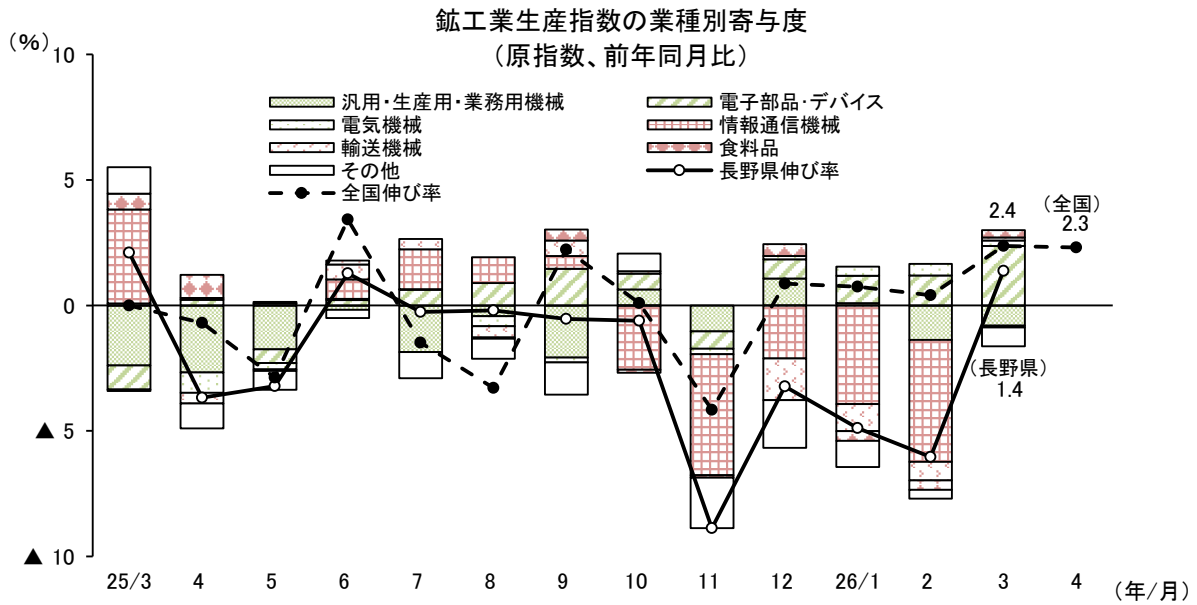
(資料)当研究所「長野県景気動向指数」
 (注) 1.NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す
 2.シャドー部分は長野県の景気後退期を示す



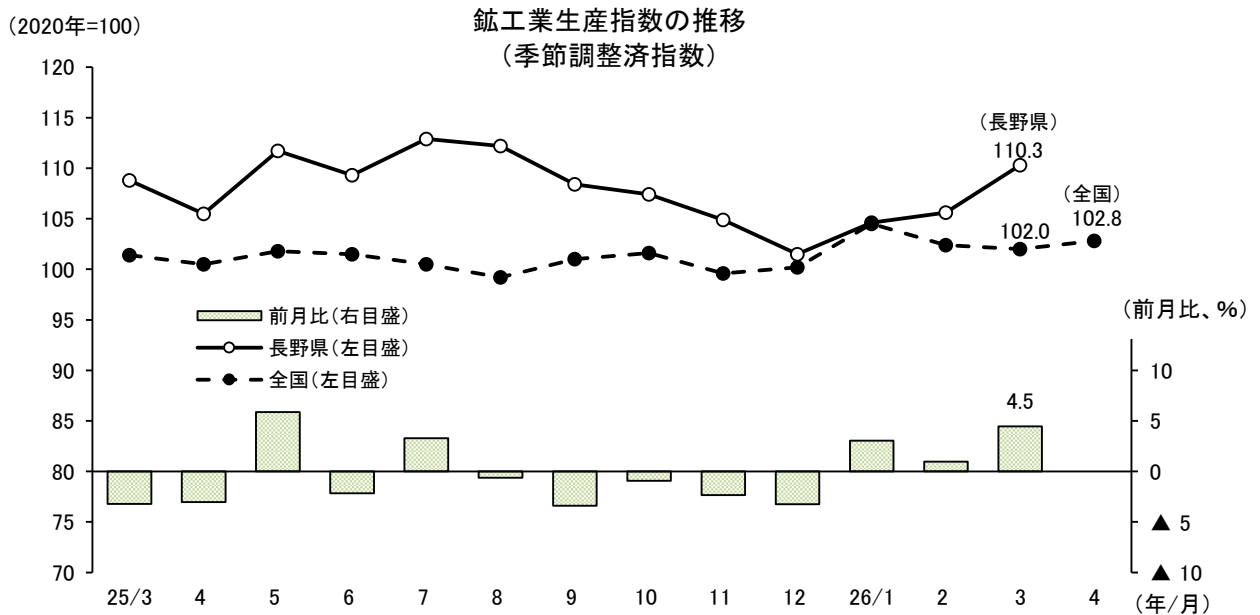
(資料)当研究所「長野県景気動向指数」
 (注) 1.NDIは長野県の景気の方角、波及度合いを示す
 2.シャドー部分は長野県の景気後退期を示す

生産は底入れの兆しがみられる

- ・3月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比+1.4%、季節調整済指数が前月比+4.5%となった。
- ・季節調整済指数は3カ月連続で前月を上回ったほか、原指数も9カ月ぶりに前年を上回った。AIサーバー向けの部品などを中心に増産の動きがみられるほか、車載関連向けもこのところ持ち直しつつあるため、生産は底入れの兆しがみられる。
- ・主要業種別にみると、「汎用・生産用・業務用機械」「情報通信機械」などが前年を下回ったものの、「電子部品・デバイス」「食料品」が前年を上回った。



(資料) 長野県企画振興部総合政策課統計室「長野県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」
(注) 全国: 26年4月分は速報値



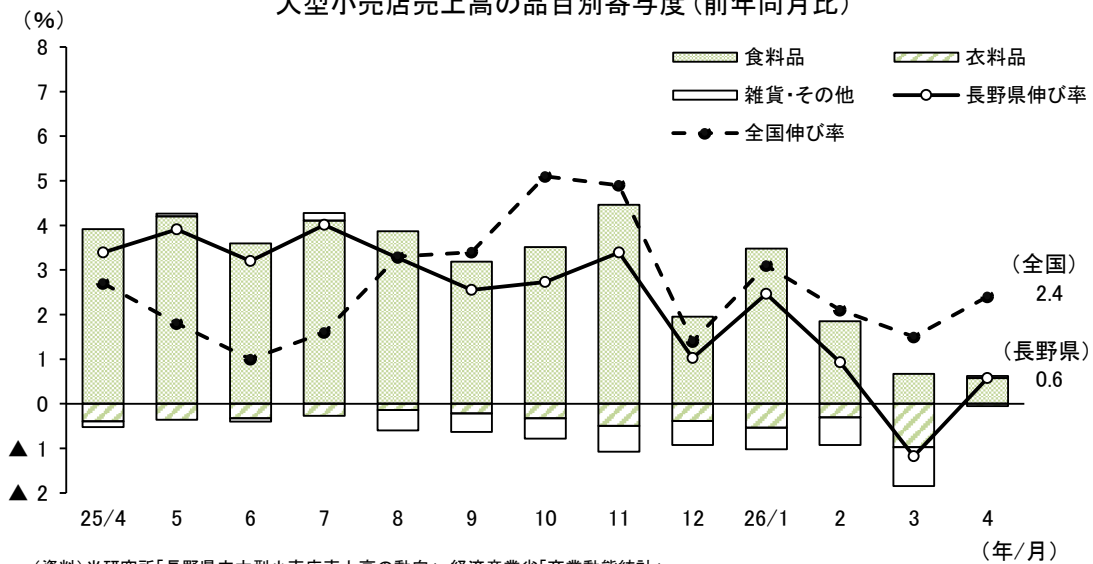
(資料) 長野県企画振興部総合政策課統計室「長野県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」
(注) 全国: 26年4月分は速報値

個人消費

乗用車新車販売台数は2カ月連続で前年を上回る

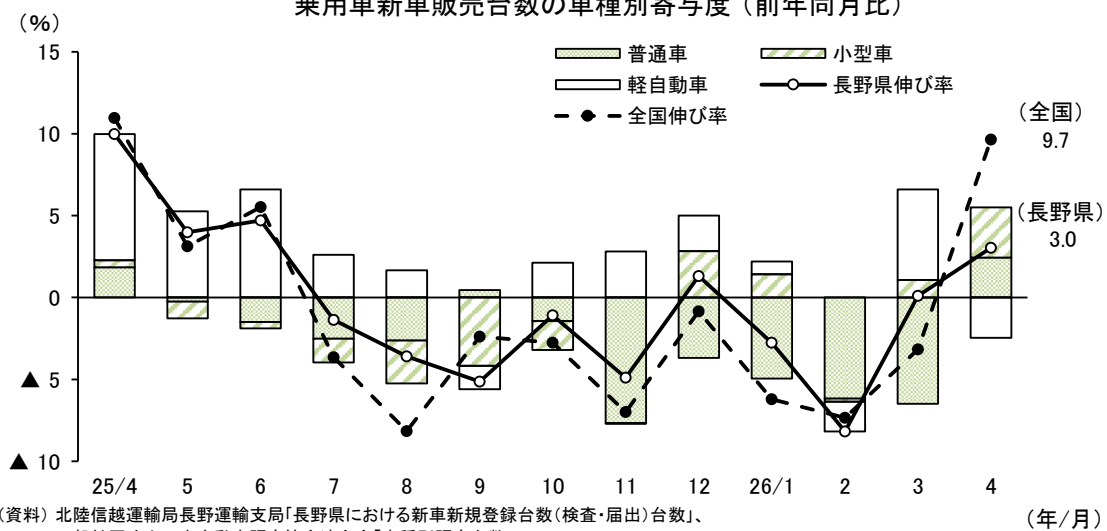
- ・4月の大型小売店売上高は、前年同月比+0.6%（売場面積調整前）となり、2カ月ぶりに前年を上回った。食料品は、コメや調味料等の販売価格の上昇などが続き、同+0.7%となった。衣料品は、物価上昇による節約志向が続いていることから、同△1.4%となった。雑貨・その他は、化粧品等が持ち直し、同+0.4%となった。
- ・4月の乗用車新車販売台数は、前年同月比+3.0%と2カ月連続で前年を上回った。車種別にみると、軽自動車は同△6.0%と2カ月ぶりに前年を下回ったものの、普通車は同+6.2%と2カ月ぶりに、小型車は同+15.5%と2カ月連続で、いずれも前年を上回った。

大型小売店売上高の品目別寄与度（前年同月比）



(資料) 当研究所「長野県内大型小売店売上高の動向」、経済産業省「商業動態統計」
 (注) 全国伸び率: 26年4月分は速報値

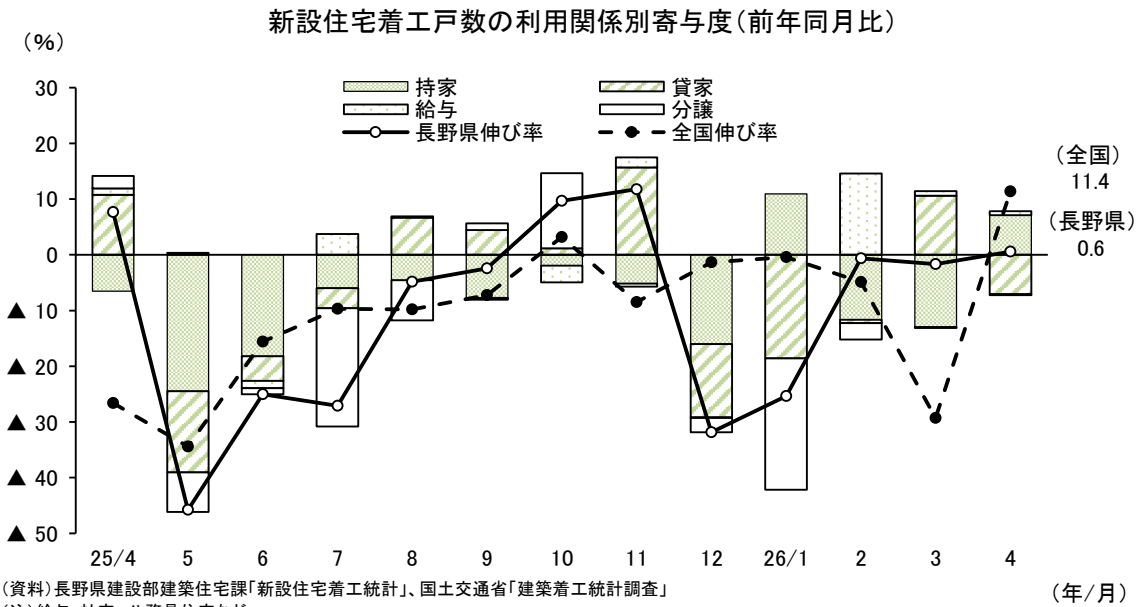
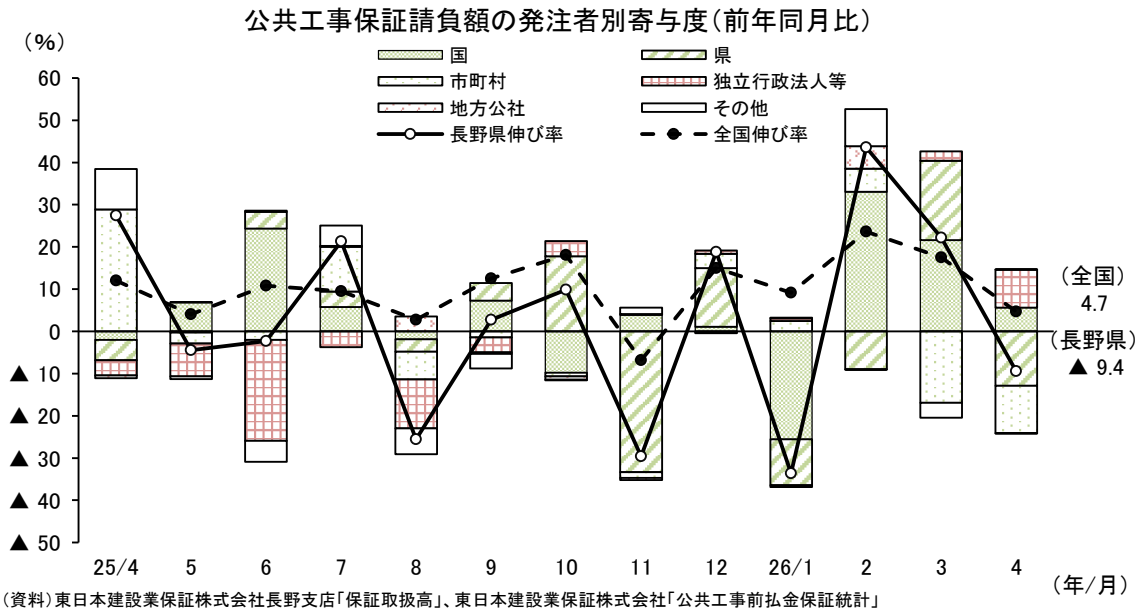
乗用車新車販売台数の車種別寄与度（前年同月比）



(資料) 北陸信越運輸局長野運輸支局「長野県における新車新規登録台数(検査・届出)台数」、
 一般社団法人日本自動車販売協会連合会「車種別販売台数」、
 一般社団法人全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売台数確報」
 (注) 普通車: 3ナンバー車、小型車・軽自動車: 5ナンバー車

新設住宅着工戸数は5カ月ぶりに前年を上回る

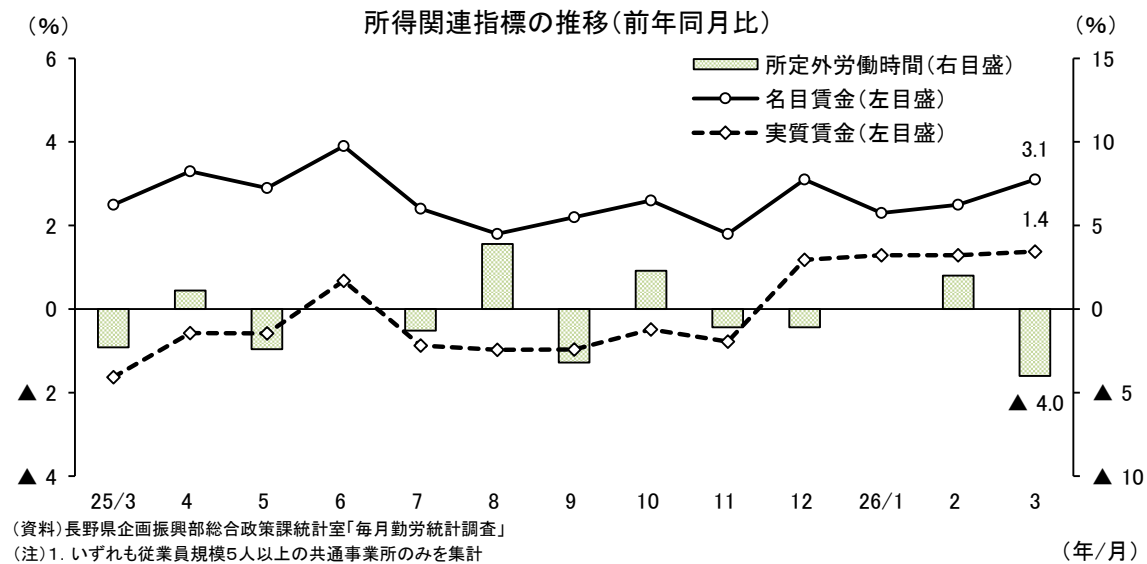
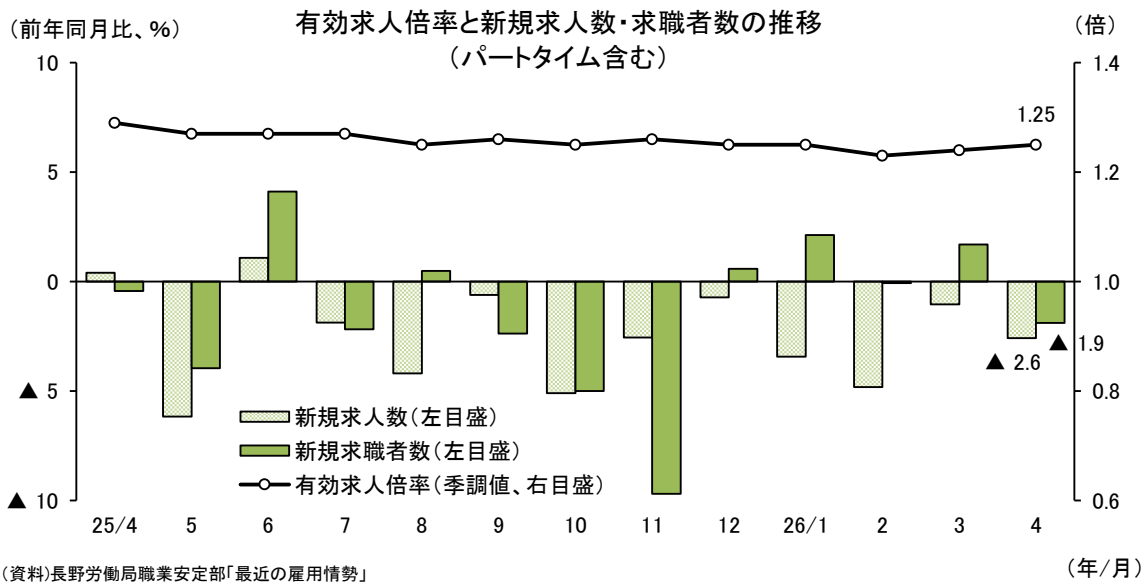
- 4月の公共工事保証請負額は、前年同月比△9.4%の478億6,000万円となり、3カ月ぶりに前年を下回った。発注者別にみると、国が同+225.5%、独立行政法人等が同+37.2%、その他が同+1.0%と増加したものの、県が同△47.5%、市町村が同△30.2%と減少した。
- 4月の新設住宅着工戸数は、前年同月比+0.6%の864戸と5カ月ぶりに前年を上回った。利用関係別にみると、貸家が同△23.0%、分譲が同△0.8%と減少したものの、持家が同+13.5%、給与が同+54.5%と増加した。



雇用

有効求人倍率は2カ月連続で前月を上回る

- ・4月の有効求人倍率は、前月比+0.01ポイントの1.25倍となり、2カ月連続で前月を上回った。
- ・新規求人数(全数)は前年同月比△2.6%となり、10カ月連続で前年を下回った。このうち常用は同△2.9%、パートは同△2.8%となった。主要産業別では運輸業、郵便業が同+12.4%、製造業が同+11.6%、卸売業、小売業が同+4.3%となるなど5産業は前年を上回ったが、サービス業が同△19.3%、宿泊業、飲食サービス業が同△5.4%、医療、福祉が同△1.0%となるなど7産業は前年を下回った。
- ・新規求職者数(全数)は、前年同月比△1.9%と2カ月ぶりに前年を下回った。
- ・3月の名目賃金は前年同月比+3.1%と59カ月連続で前年を上回り、実質賃金は同+1.4%と4カ月連続で前年を上回った。所定外労働時間は同△4.0%と2カ月ぶりに前年を下回った。



県内地域別・近隣都県別有効求人倍率

有効求人倍率は東信及び南信で前年を上回る

- ・4月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比△0.06ポイントの1.10倍、東信が同+0.02ポイントの1.22倍、中信が同△0.15ポイントの1.14倍、南信が同+0.01ポイントの1.21倍となった。
- ・職業安定所別有効求人倍率(全数)は、伊那が1.27倍と最も高く、次いで佐久が1.23倍となった。
- ・長野県の有効求人倍率は67カ月連続で全国を上回り、順位は前月と変わらず16位となった。

長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(26年4月)

地域	北 信(1.10) (前年同月比▲0.06)				東 信(1.22) (前年同月比+0.02)		中 信(1.14) (前年同月比▲0.15)			南 信(1.21) (前年同月比+0.01)		
	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曾福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.16	1.01	1.00	1.16	1.22	1.23	1.16	1.16	1.03	1.16	1.27	1.21
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.04	▲ 0.06	+ 0.06	▲ 0.27	+ 0.05	+ 0.01	▲ 0.16	▲ 0.16	▲ 0.06	▲ 0.17	+ 0.15	+ 0.04
うち常用	1.04	0.97	0.99	1.05	1.13	1.20	1.03	1.07	0.99	1.11	1.11	1.11
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.04	▲ 0.07	+ 0.08	▲ 0.25	+ 0.03	+ 0.00	▲ 0.18	▲ 0.13	▲ 0.04	▲ 0.13	+ 0.13	+ 0.02

(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」

(注)実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値

